



5月12日は看護の日でした。現在、ニュースで取り上げられているように、私達を取り巻く環境は日に日に変化しています。コロナで大変な想いをしている人、後遺症に苦しんでいる人、心が壊れてしまいそうになっている人、さまざまな環境で苦勞している人がいます。しかし、人は生きていなくてはなりません。高齢社会となり、ますます大変な時代が来ています。これからの未来を創るのはあなたたち若者です。看護師は大変な仕事です。辛いことも沢山あります。しかし、とてもやりがいがあり、楽しいこと嬉しいことも沢山あります。今回、少しでも私達看護師の仕事を知っていただきたく、看護学校を卒業して2~3年目の看護師に「~だから、私は、看護師を選ぶ」をテーマに新聞を作成しました。最後まで読んでください。そして、私達と一緒に働きませんか？ 数年後、お会いできる日を楽しみにしています。

テーマ 『~だから、私は、看護師を選ぶ』

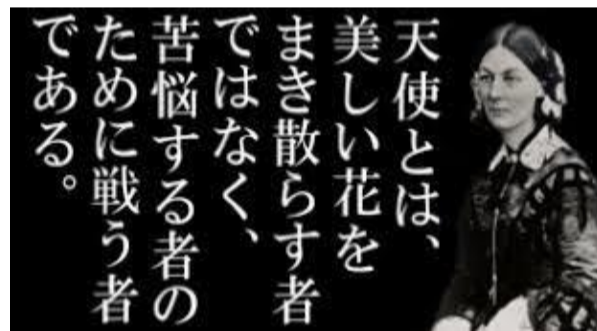
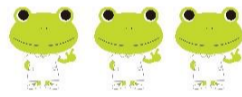


最初のきっかけは、看護師の叔母が会う度に看護職になることを勧めてきたことです。それまで医療職を目指そうなんてほとんど考えたことがなく、入院したことのなかった私は看護職がどんな仕事なのか想像もできませんでした。はじめはなんとなく人の役に立つ仕事がしたいと思い看護職を選びました。実際に看護師になり、看護師という仕事の大変さとともに、深いやりがいを実感しています。当たり前ですが、一人ひとり病気が異なるため、その人に合った治療方針を患者さん自身が選びます。ですが患者さんは治療や病状に不安を抱えているため、不安が最小限になるように声を掛け、分からないことへの説明を行うのです。このように患者さんに寄り添い、その人が自分の生きたいように生きられるよう支援するのが看護職です。身体的に苦しい時期、精神的に苦しい時期、こんなに人の辛い時期を支えることができる仕事は他にないと思います。だから私は看護職を選びます。



私は、もともと人体の身体に興味があったので、将来は医療に携わりたいと思っていました。看護師の道を選んだのは、正直に言うとテレビドラマのフライトナースがかっこよかったからです。志した理由としては夢見がちですが、東日本大震災での東北の映像を見てこんなときに人を助けられる知識と技術がほしいと

思ったこともさらにその想いを後押ししました。今はICUで勤務しています。ICUは重症な患者さんの治療が行われる病棟で、患者さんの回復に時間がかかることも多くあります。ですが患者さんの回復を感じられることができるのはとても嬉しく、その喜びを患者さんと共有できた時は何とも言えない達成感と喜びがあります。患者さんがどうしたらもっと楽になるか、治療に前向きになれるか一生懸命考えて、実践して、また考えての繰り返しですが、試行錯誤が実を結んだときにやりがいを感じています。



フローレンス・ナイチンゲールはイギリスの看護婦「光掲げる貴婦人」、「クリミアの天使」と称されている。

市立釧路総合病院
Kushiro City General Hospital



現在、産科病棟で助産師として働いています。新しい生命の誕生をサポートできることが、助産師という仕事の一番のやりがいです。妊娠期から関わってきた妊婦さんが無事出産をし、元気な赤ちゃんの産声が分娩室に響きわたる瞬間は、何度経験しても感動的です。また、産科病棟は、唯一『おめでとう』と言える環境であり、命が誕生するときの感動は、立ち会ったことがある人しか味わえないとても神秘的なものです。一方で、中絶、流産、死産に立ち会う中では、命が誕生することの難しさを感じ、命の大切さや命の重みを改めて実感します。また、お産で関わらせて頂いた妊産婦さんに「助産師さんが傍に居てくれて心強かったです。安心できました。」等と自分の関わりや思いが患者さんにちゃんと伝わっていたのだと実感できた時には「助産師として働いてよかったな。素敵な仕事だな。」と改めて思います。看護職と一口で言っても、活躍の場は本当に幅広く、可能性は無限にあり、やりがいのある職業です。みなさんも看護職を目指してみませんか？

私が看護職に興味を持ったのは高校生の時でした。職業体験や働いている看護師の方からの話を聞く機会を通して、「大変そうだな、自分にできるのかな」と思っていたのですが、人と深く関わり、支える仕事は素敵だと思い看護師を志しました。実際に看護師になってからは大変だと思ふこともたくさんありました。それでも看護師を続けられているのは患者さんがいるからです。患者さんは病気の中で人それぞれ不安や悩みを抱えながら療養生活を送っています。しかし、その中で、私は患者さんに元気をもらうことが多いです。笑顔を見ると元気がでて、私も患者さんにとって元気の出る存在でありたいと思います。また、私は、看護職は療養生活を通して人の人生に関わることができる仕事だと思っています。私はもともと人と関わるのが好きで、人と深くかかわることができる仕事に就きたいと思っていました。そんな私にとって患者さんと関わり、患者さんの人生に触れることができる仕事は看護師しかないと思っています。



消化器内科に配属され看護師として2年間勤務しています。看護師として勤務し、日々多くのやりがいや難しさを感じています。消化器内科では、急性期から終末期までの幅広い患者さんが入院されます。それぞれの疾患やADLは異なりますが、不安を抱えている点は共通していると感じています。点滴や注射などの医療行為を安全に行う事は、もちろん看護師として必要です。また看護師は、医療職の中でもベッドサイドで多くの時間を患者さんと関わっています。現在コロナウイルスなどにより面会制限されているなかで、ご家族と会えない環境は、より不安を増強させることも考えられます。そのため、忙しい業務の中でも、コミュニケーションを取る時間や何か話してくれようとしているタイミングを大切にしています。患者さんが少しこわばった表情から穏やかになる瞬間があります。そのような時の患者さんの笑顔を見られることが看護職のやりがいでもあると考えます。私は、患者さんの人生に少しでも関わることでできる看護職を誇りに思い、看護師の仕事を選んで良かったと感じています。

